

Ⅳ. 帳票類記載見本【改訂版】

基本帳票類 記載見本

自立相談支援機関来所までの経緯

42歳のAさん。20代のころから20年近く自宅にひきこもってきました。自宅は自営業。父親が70歳を超えてついに脳梗塞で倒れて、自営業をたたまざるを得ない状況になりました。父親は一命はとりとめたものの、後遺症が残っており、60代後半になった母親が介護をする生活になりました。自宅には30代の弟がいて同居していますが、Aさん同様にひきこもっており、収入は両親の年金だけになりました。自営業で生活してきたAさんのご両親はずっと国民年金だったため、家族4人で暮らすには年金収入だけでは難しい状況であることをAさんと弟は初めて知りました。

こうした状況となり、Aさんは家族と話すようになりました。しかし、ある日弟と口論となり、激高した弟が包丁を持ち出す事態になりました。通報でかけつけた警察官が仲裁に入り一応事態は収束しましたが、身の危険を感じたAさんは、かねてよりインターネットで調べていたひきこもり支援団体に駆け込み、「ひきこもりの弟の暴力をなんとかしてほしい」「今日は家に帰れない」と訴えました。ひきこもり支援団体では生活困窮への対応も必要と考え自立相談支援機関を紹介し、Aさんと同行し相談にやってきました。

Aさんに関する支援初期の基本情報

基本情報	希望	住まい	家族
- Aさん 42歳男性 - Aさん・弟ひきこもり、不就労 - 父の介護度不明 - 年金受給も不明	「働かないといけない」 「でも自信はない」 「人と接しない仕事ならできそう」 - 求職は避けている	- 実家（持家） 1階は店舗跡 2階の3部屋で家族4人が暮らす	父 72 母 68 父の介護 半年前 脳梗塞 本人 (Aさん) 42 弟 34 - 母とよく話す - 父苦手 - 弟と先日口論に - ひきこもり支援団体に弟の対応を求めて相談 - ひきこもり支援団体の紹介で来所
生活歴 S48 出生 H4 大学4年で中退 H15 弟ひきこもり H27.1 父倒れ、店閉じる	希望 「働かないといけない」 「でも自信はない」 「人と接しない仕事ならできそう」 求職は避けている	住まい 実家（持家） 1階は店舗跡 2階の3部屋で家族4人が暮らす	家族 父 72 母 68 父の介護 半年前 脳梗塞 本人 (Aさん) 42 弟 34 - 母とよく話す - 父苦手 - 弟と先日口論に - ひきこもり支援団体に弟の対応を求めて相談 - ひきこもり支援団体の紹介で来所
サービス - Aさんは「わからない」 「母より”ケアマネ”という言葉は聞いた - 母は「ケアマネがよく話を聞いてくれたら」と言う	生活サイクル（シェルター入所前） 9時 起床 12時 20時 24時 夜中活動	個人の状況 <ADL> 食事 ○ 調理 × 移動 ○ 運転免許 × 金銭管理 ○ <健康> メンタルヘルス 不安・抑うつ・発達障害？	<対人> 人ごみは人目 気になり怖い 話すのが怖い インターネットでの交流も苦手 <仕事> アルバイト1週間のみ（22歳頃） 仕事できないと怒られてやめる 何がダメかわからない <趣味> マンガ、ゲーム、アニメ

事例の概要

プロセス	概 要	関与関係機関・関係者等
ひきこもり支援団体への相談	- 父親が倒れたことを契機に、家族で話すようになるも、ひきこもりの弟と今後のことについて口論になり弟が包丁を持ち出す。そのため、Aさんはひきこもり支援団体に駆け込み、弟をなんとかしてほしいことと、今夜は家に帰れないことを訴える。 - Aさんの所持金はほとんどなく、ホテルに泊まる等は難しい。しかし、Aさんは「絶対家には帰れない」と訴えたため、ひきこもり支援団体が自立相談支援機関を紹介。	ひきこもり支援団体
相談受付 (平成27年7月3日)	- ひきこもり支援団体の相談員が同行し自立相談支援機関に来所。 - Aさんは、弟は自分と顔を合わせればまた激高するかもしれない、怖くて家に帰れないと訴える。 - 将来の不安もあり、働きたいと考えているが、20年以上のひきこもり生活により、仕事ができるかどうか、雇ってくれるところがあるかなど不安がある。「人とあまり接しない仕事であればできそう」とのこと。 - 倒れた父親の世話は現在母親がしているが、母親も68歳と高齢で、今後の介護にも不安がある。 - Aさんと相談し、一度状況を確認するため自宅に電話をかける。母親が出て話をするが、母親も「もしもう一度喧嘩になれば、自分と病気の父親だけでは抑えられない、もし落ち着くまでいられる場所があるならそちらで過ごしてほしい。」とのこと。そのため、緊急支援ということで、一時生活支援事業を活用することに。	
面談等支援経過 (平成27年7月4日～7月7日)	- 翌日の7/4に再びこれまでの経過も含め詳しく聞く。 - Aさんも弟もひきこもりで自宅にいたが、これまでほとんど会話はなかった。口論になったのは、Aさんが弟に対して「働かなければならない」と主張したから。冷静になれば自分自身も働けないくせに、偉そうに言ってしまったとAさんは反省している様子。 - 自宅はあるが古いため、家族として今後も住み続けられるか不安。Aさん自身の今後のことは、もし親がお金を出してくれるなら一人暮らしを始めたいと思っている。ただ、自分も働いていないし、生活費をどうすればいいのかはよくわからない。 - ひきこもり生活が長いこともあるのか、言葉につまりながら話をするなど、コミュニケーションに課題がある。すぐに仕事など社会的な場面に参加することは難しい様子。 - 今後のために、母親に一度自立相談支援機関に来てもらって、話し合うことを提案。自宅に電話をかけるも不在だった。 - 翌日7/5、母親から自立相談支援機関に電話がある。今度は父親と弟で口論となり、やはり弟が激高する事態となった。そのため、再度警察を呼びなだめられた。Aさんは知らなかったが、弟は以前から精神科に受診していたそうで、その日急遽受診。主治医と話しあった結果、しばらく入院することになった。長く入院するのか、すぐに退院するのかはまだわからない。 - 翌々日の7/7、母親から自立相談支援機関に電話があり、弟の入院は3ヵ月ほどになったので、一度Aさんが自宅に戻ってきてはどうかとなる。Aさんも、了解し一時生活支援事業のシェルターを出て、自宅に戻る。 - これからの家族のことを考えていくため、母親も自立相談支援機関に来所することとする。	福祉事務所
面談等支援経過 (平成27年7月10日～9月11日)	- 自宅に戻ったAさんと母親が来所。Aさんは自分自身の今後の自立のことを相談していく、母親は経済的なことや父親、弟のことを考えていくため別途相談申込をしてもらうこととする。それぞれ相談を続けながら、それぞれ担当が情報を共有しあい、必要な時は合同で相談を行うことに。 - Aさんは、1週間後に2回目の面談を予定していたが疲れてキャンセルしたことから、相談ペースを2週間に1回に変更。	医療機関 地域包括支援センター

日)	・ 不安や不眠があるようであるため、医療機関受診をすすめる。 ・ Aさんは頼れる人はいない。母親は近所づきあいが多少ある模様。 ・ 母親の相談では、現在は夫婦の年金(国民年金)のみが収入となっており、一度生活保護の相談に行ったが、貯蓄が 300 万円ほどあることから、生活保護は受けられない旨言われたことがわかる。また、夫の介護については地域包括支援センターを交えてケースカンファレンスを行うことになる。 ・ 母親の担当相談員が、弟の入院先の PSW と話をするため母親に同行。弟は統合失調症の診断で、手帳申請と障害年金の申請をすることとなった。弟は Aさん、父親のいずれとも折り合いが悪く、退院後はグループホームか単身アパート生活をしていくことに。そのサポートは病院の PSW がしていく。	
プラン策 定・支援 決定 (平成 27年9 月18日 ～9月20 日)	・ Aさんと話し合いながらプラン策定⇒支援調整会議⇒自治体による支援決定 【本プランにおける達成目標】 ・ 人と緊張しないで話せるようになる。 ・ どこか通えるようになる。 ・ できたら就労準備支援に参加する。 ・ 家族の状況を把握する。	自治体 就労準備支援 事業所 関係各機関 (支援調整会 議参加機関)
支援実 施・モニタ リング (平成 27年9 月21日 ～平成 28年3 月4日)	・ 医療機関を受診し、少しずつ回復。 ・ ひきこもり支援団体の SST(ソーシャルスキルトレーニング)に参加。自立相談支援機関が同行し、事前の面談をし、参加時にも同席したが、途中からは一人で参加。 ・ SST のスタッフを交えて三者で振り返り、徐々に慣れてきていることを確認。 ・ 年明けから、就労準備支援(清掃)に参加開始。週2回3時間からスタートしがんばっていたが、2月下旬に無断欠席。その後体調不良であることがわかり、1週間の休養後に再開。事業所からも遅刻せず通えたことやコツコツとまじめに取り組んだことなどを評価されるが、体力面の課題があること、一度にたくさんのかを言われると混乱したり、まだ作業スピードが遅いことなどもあり就労準備支援の継続が必要と判断される。 ・ 母親も交えてこの間の振り返りと情報共有。弟はグループホームに入ることができた、年金もおりることとなったが、それだけでは足りないため生活保護の申請も併せてしている。父親の介護は母親とケアマネとの関係もよくなり、使える支援はうまく使えている。ただ、自宅が高齢者が生活するには厳しく、リフォームする費用もないことから、売却し、住みやすい賃貸住宅に転居することを考えている。そこから公営住宅の申込をしようと思っているそう。	医療機関 ひきこもり支 援団体 就労準備支援 事業所
評価 (平成 28年3 月12日 ～3月26 日)	・ 緊張はするが、人と話せる感じがしてきた。 ・ 病院にも通院し、服薬を続けている。 ・ 就労準備支援や SST に通うことはできたが、まだ疲れてしまう。就労への不安はまだ残っている。 ・ 母親にも支援が入り、家族全体の精神的な負担が軽減された。駅近くの賃貸アパートの1階に入居が決まった。土地の買い手はまだついていない。 【今後の方針】 ・ 社会参加機会の増加、健康状態の改善、生活習慣の改善などの成果が見られる。 ・ ただ、まだ就労までは難しく、就労準備支援が必要である。また毎日働けるようになるための体力をつける必要もあるため、プランを継続して支援を続ける。	

【1】相談受付・申込票【本人等記入→スタッフが追加聞き取り】

〈紙で使用→基本情報等はDB入力、利用申込書として紙で保管〉 ※必須

相談受付・申込票

記入要領 p.11,38

ID	000001-000001	※初回相談 受付日	平成 27 年 7 月 3 日	受付者	みずほ 太郎
----	---------------	--------------	-----------------	-----	--------

■基本情報

ふりがな			※性別	■男性 □女性 □()	
氏名	〇〇 △△		※生年月日	□大正 ■昭和 □平成 48 年 7 月 1 日 (42 歳)	
住所	〒 —				
電話	自宅	() —	携帯	() —	
メール					
来談者 *ご本人 以外の場合	氏名		来談者の ご本人と の関係	□家族(本人との続柄:) □その他()	
	電話	() —			

■ご相談内容

ご相談されたい内容に○をおつけください。複数ある場合は、一番お困りのことに◎をおつけください。

○	病気や健康、障害のこと	◎	住まいについて	○	収入・生活費のこと
	家賃やローンの支払いのこと		税金や公共料金等の支払いについて		債務について
○	仕事探し、就職について	○	仕事上の不安やトラブル		地域との関係について
○	家族との関係について		子育てのこと	○	介護のこと
○	ひきこもり・不登校		DV・虐待		食べるものがない
	その他()				

ご相談されたいことや配慮を希望されることを具体的に書いてください。

【Aさん記載】

- ・ 家に帰れない。

【追加聞き取り事項】

- ・ ひきこもりの弟さんと口論になり、弟さんが包丁を持ち出したので家に帰れない。
- ・ 所持金はない。
- ・ 自分の将来のことも不安。働けるようになりたい。

■相談申込み欄

〇〇様

上記の相談内容等について、自立・家計相談支援の利用を申し込みます。

また、相談支援にあたり必要となる関係機関（者）と情報共有することに同意します。なお、同意にあたっては、別紙の「個人情報に関する管理・取扱規程」について説明を受けました。

平成 27 年 7 月 3 日 本人署名 〇〇 △△ 印

【2】 インテーク・アセスメントシート【スタッフ使用】

＜DB 入力(付随シート以外)＞

インテーク・アセスメントシート

記入要領 p.16,21,45

ID	000001-000001	氏名	〇〇 △△	最終 更新日	平成 27 年 8 月 7 日
----	---------------	----	-------	-----------	-----------------

サブ区分 フラグ		関連ID	000001-000002	備考	関連 ID は母親
-------------	--	------	---------------	----	-----------

■相談経路・相談歴

※当初 相談経路	☐ 本人自ら連絡(来所)	☐ 本人自ら連絡(電話・メール)
	☐ 家族・知人から連絡(来所)	☐ 家族・知人から連絡(電話・メール)
	☐ 自立相談支援機関がアウトリーチして勧めた	
	☒ 関係機関・関係者からの紹介(関係機関・関係者名: ひきこもり支援団体)	
	☐ その他()	
これまでの相談歴の有無(本人や家族に過去にどこかの機関への相談経験があるかを確認)		
☐ なし ☒ あり		
相談歴の概況／相談経緯(誰が、どこに、どのような相談をしたか、その結果がどうであったかを記載)		
7/3、午後 14 時過ぎにひきこもり支援団体に直接来所。午前中、弟と口論となり弟が包丁を持ち出したため、家に帰れない、なんとかしてほしいと相談あり。		

■本人の主訴・状況

本人の 訴えや 状況 (生活歴 を含む)	・ ひきこもりの弟が包丁を持ち出して、怖くて家に帰れない。 ・ 所持金もないし、仕事もしていない。 ・ 将来の生活が不安。働きたい。 ・ 親が病気で仕事をやめた(自営業)。生活費が足りないようだ。 ・ 自分も働かなければと思うが、20 年近くひきこもっていて、仕事ができるか不安。雇ってくれるところもないと思う。どうしたらいいかわからない。怖い。人と関わらない仕事ならできそうな気がする。 ・ 大学中退後、コンビニでアルバイトをしたことはあるが、1 週間で退職。 ・ 父親が病気で倒れて、母親が介護をするようになった。母親ももう 68 歳。母親も倒れたら自分が介護をするのだろうか、と不安。家が古くて、このままずっと住めるのか不安。

【2】インタビュー・アセスメントシート【スタッフ使用】
 <DB 入力(付随シート以外)>

■本人の主訴・状況(続き)

(1) 家族・地域関係・住まい

※同居者	■有(自分を含んで 4 人) □無	別居の家族	□有() ■無
※婚姻	■未婚 □既婚 □離別 □死別 □その他()	※子ども	■無 □有(人 →扶養 □有 □無)
家族の状況 (子どものことを含む)	・ 父親は半年前に脳梗塞で倒れ通院中。それを機に日用品店をたたむ。 ・ 母親が父親の介護 ・ 弟はひきこもり ・ 母親とは元々日常会話程度はあった ・ 父親、弟とは何年も話していなかったが父親の病気を機に少し会話が出て来た。		
住居	■持家 □借家 □賃貸アパート・マンション □公営住宅 □会社の寮・借り上げ住宅 □野宿 □その他()	地域との関係	・ A さんには頼れる人はいない。ひきこもり支援団体の職員にはよくしてもらったので、また困ったら話しにかけようとのこと。 ・ 父親と弟に頼れる人がいるのかは不明と A さん。(母親の話から、父親は病院の Dr と地域包括のケアマネ、市役所の高齢担当、弟は精神科の Dr と PSW が支援についていることが判明) ・ 母親は親戚や近所の人との付き合いがある。自立相談支援機関にも相談中。父親と弟の支援者とも話をしている。ただ、どちらも「あまり話を聞いてくれない」と不満に思っている様子も見受けられる。
特記事項	・ 自宅は持ち家で、1 階は以前の店舗がそのまま、2 階の 3 部屋で家族 4 人で暮らしていた。 ・ 弟は精神科入院となった(平成 27 年 7 月)		

(2) 健康・障害

※健康状態	☐ 良い ☐ 良くない/通院している ☒ 良くないが通院していない	通院先 / 服薬・診断・症状等	
健康保険	■国民健康保険 ☐ 健康保険(国保以外) ☐ 加入していない	障害手帳等	■無 □有→ ☐ 身体(級) ☐ 知的(療育)() ☐ 精神(級) ----- 自立支援医療 ☐ 利用 ■利用せず
特記事項	・ 言葉につまりながら話をする。相談中「久しぶりに母親以外の人と話すので」「うまく喋れない」といいながら何度か「すみません」と言う。緊張が伝わってくる、不安や抑うつがある模様。		

(3) 収入・公的給付・債務等

家計の収支状況	世帯として 月々入ってくるお金 (月額 約 13 万 円) 月々出ていくお金 (月額 不明 円)	家計状況	・ 両親の年金だけが収入。A さんはあまり把握していないが夫婦合わせて 13 万円弱。 ・ 出ていくお金については、母親もあまり把握できておらず家計相談が必要な様子。 ・ 月々出ていく金額は不明
課税状況	■住民税非課税世帯である ☐ 住民税非課税世帯ではない	滞納	☐ 滞納あり ■滞納なし
		債務	☐ 債務あり ■債務なし
公的給付(受給中)	☐ 雇用保険 ■老齢年金・遺族年金 ☐ 障害者年金 □特別障害者手当 ☐ 児童手当 □児童扶養手当 ☐ 特別児童扶養手当 □住居確保給付金 ☐ その他()	生活保護	母親が一度相談に行っているが、受給に至っていない
特記事項	・ 父親の店に残った在庫は親戚や近所の親しい人に概ねあげて処分したが、今も残っているものもある。		

＜DB 入力(付随シート以外)＞

①概況

②現在の職業

③過去の職歴 ※現在に近い順に上から記載④職業・職歴等の特記事項

(5)その他の特記事項

■緊急支援

140

【2】 インテーク・アセスメントシート【スタッフ使用】
 <DB 入力(付随シート以外)>

記入要領 p.22,45

■アセスメント結果の整理と支援方針の検討

課題と背景 要因	【Aさん】 ・ 対人緊張や不安が高く、集団に入っていくのは困難を要する。 ・ 働くことに対して自信がない。(人と接しない仕事ならできるような気がするAさん。) ・ 自分の得意なことや課題について、自分でも漠然としている。就労するイメージも掴めない。 ・ 対人関係への緊張や不安、働くことへの自信のなさの背景には長期ひきこもりに加え、学校時代のいじめや孤立、アルバイトでの失敗がある様子。 ・ 学校時代のつまづきや、アルバイトの失敗、自己理解のしにくさの背景に軽度の知的障害や発達障害などがある可能性も。 ・ 不安や、抑うつが見られるが、医療機関につながっていない。 ・ 昼夜逆転気味。 【家族】 ・ 父親が脳梗塞で倒れ介護が必要な状況。 ・ 父親はケアマネが担当している。Aさんが聞く限り、母親はケアマネとのコミュニケーションがあまりうまくいっていないと感じている様子。 ・ 弟は統合失調症で状態が悪く入院中。 ・ Aさんと父親は、弟と関係が良くない。Aさんは弟の退院後の家族関係を心配している。 ・ Aさんは、父親の介護の状況や、弟の通院や障害福祉の利用状況等は知らない。 ・ 自宅は老朽化し、2階が生活スペース(1階は店舗跡)。介護が必要な高齢者が住み続けるのは難しい。
※課題のまとめと支援の方向性 (300字以内で整理)	・ Aさんは長期ひきこもり。対人不安、働くことへの自信のなさ、自己理解や就労イメージの乏しさ、昼夜逆転があり、背景に軽度知的障害や発達障害の可能性も。医療機関へつなぎ、自己理解促進と存在を認められる関わりのもと、地域の居場所や就労準備訓練を提案する。 ・ 父親の介護、統合失調症の弟の病気や生活、住まいの問題を抱えており、状況を把握し必要な支援体制を整えるため、キーパーソンである母親に来所を促す。
※チェック項目	☐ 病気 ☐ けが ☐ 障害(手帳有) ☒ 障害(疑い) ☐ 自死企図 ☒ その他メンタルヘルスの課題(うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など) ☐ 住まい不安定 ☐ ホームレス ☒ 経済的困窮 ☐ (多重・過重)債務 ☐ 家計管理の課題 ☒ 就職活動困難 ☐ 就職定着困難 ☐ 生活習慣の乱れ ☒ 社会的孤立(ニート・ひきこもりなどを含む) ☒ 家族関係・家族の問題 ☐ 不登校 ☐ 非行 ☐ 中卒・高校中退 ☐ ひとり親 ☐ DV・虐待 ☐ 外国籍 ☐ 刑余者 ☒ コミュニケーションが苦手 ☒ 本人の能力の課題(識字・言語・理解等) ☐ 被災 ☒ その他(大学中退)

■スクリーニング

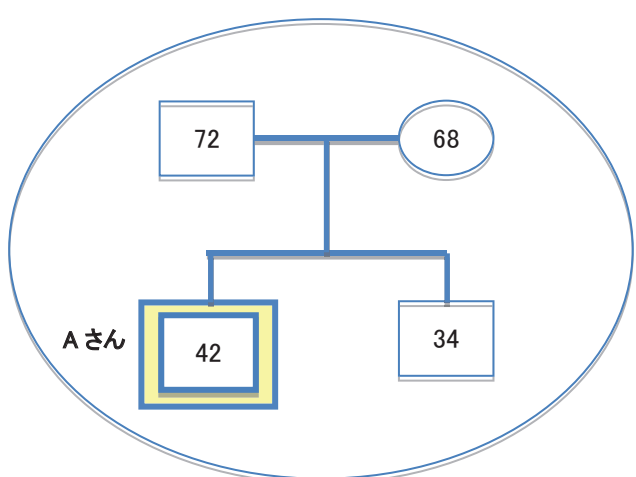
※スクリーニング実施日	平成 27 年 7 月 10 日
※対応結果・方針	☐ 1. 情報提供や相談対応のみで終了 ☐ 2. 他の制度や専門機関で対応が可能であり、つなぐ (必要に応じて、事前連絡や同行支援を実施し、結果をフォローアップする) (→つなぎ先の制度・専門機関:) ☐ 3. 現時点では本人同意はとれていないが、引き続き同意に向けて取り組む ☒ 4. 自立相談支援機関が継続支援し、プランを策定する ☐ 5. スクリーニング判断前に中断・終了(連絡がとれない/転居等)
特記事項	

対応重要度	☐ A ☒ B ☐ C ☐ D
--------------	--

【2】付随シート(紙での使用)

ID	000001-000001	氏名	〇〇 △△
----	---------------	----	-------

■ 家族関係図

家族関係図(□=男性、○=女性)	支援経過における変化
	弟は A さんとも父親とも折り合いが悪く、口論・激高となる。 →7/5 父親とのけんかを機に弟は精神科入院

■エコマップ(地域や周囲との関係性)

エコマップ	支援経過における変化
	ひきこもり支援団体を通じて自立相談支援機関につながり、その後支援を展開。 7/3 一時生活支援事業利用開始 (7/7 利用終了)

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】

＜DB 入力→一覧で出力＞

記入要領 p.60

支援経過記録シート（入力用）

ID	000001-000001	氏名	〇〇 △△
----	---------------	----	-------

実施日	平成 27 年 7 月 24 日	担当者	みずほ 太郎
方法	☐ 電話相談・連絡 ☐ 訪問・同行支援 ☒ 面談 ☐ 所内会議 ☐ 支援調整会議(プラン策定) ☐ 支援調整会議(評価実施) ☐ その他他機関との会議(支援調整会議以外) ☐ 他機関との電話照会・協議 ☐ その他()		
対応相手先	☒ 本人 ☐ 家族() ☐ 関係機関 ☐ その他		
関与した関係機関・関係者等			

対応内容記録(200 字以内)

- ・ 相談ペースを1回/2週間、なるべく午後に。
- ・ アルバイト経験から生育歴確認。クラスに馴染めなかったこと、いじめにあったこと等。

詳細記録(聞き取り事項・確認した事実、対応状況等)

- ・ 「前回、相談に来られたのは良かったが、初めての場所で知らない人と話してとても疲れた。帰ってからぐったり。しばらく寝込んでしまった。」とのこと。相談員から相談のペースを2週間に1回にすることを提案すると、「お願いします」とのこと。また、昼夜逆転の傾向があるとのこと、なるべく午後の予約にすることに。
- ・ アルバイト経験について聞く。「色々と覚えることが多かった」「言われたことをやっていると、終わらないうちに途中で別のことを言われるので混乱した」「うまくできないと怒鳴られた」とのこと。
- ・ 「小学校の頃からクラスに馴染めなかった。いじめにあった」、「大学でも友人が一人も居なかった」等語られる。

支援員コメント

- ・ 前回より少し目線が上にあがった気がする。
- ・ アルバイト時の様子や、学校で友人が居なかった点等能力面や対人関係面等気になる話が出て来た。しかし、Aさんはその自分の困難さを言葉で表現するのは難しいようで、あまり詳細は出て来なかった。

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】

〈DB 入カ→一覧で出カ〉

支援経過記録シート（入力用）

ID	000001-000001	氏名	〇〇 △△
----	---------------	----	-------

実施日	平成 28 年 1 月 24 日	担当者	みずほ 太郎
方法	☐ 電話相談・連絡 ☒ 訪問・同行支援 ☐ 面談 ☐ 所内会議 ☐ 支援調整会議(プラン策定) ☐ 支援調整会議(評価実施) ☐ その他他機関との会議(支援調整会議以外) ☐ 他機関との電話照会・協議 ☐ その他()		
対応相手先	☐ 本人 ☐ 家族() ☒ 関係機関 ☐ その他		
関与した関係機関・関係者等	就労準備支援事業所		

対応内容記録(200 字以内)
就労準備支援事業所に約 1 ヶ月前に見学に行った後、就労準備支援(清掃)にチャレンジすることについて A さんの気持ちも固まったので、就労準備支援事業所の就労支援担当者との面談に同行。支援の目的と不安事項、実習日程、受入担当者を確認し、1 日ごとに記載する業務日誌を渡される。
詳細記録(聞き取り事項・確認した事実、対応状況等)
- 受け入れ側と就労準備支援の目標と不安な点を確認。 - 受け入れ側からは、希望の条件で現在受け入れ可能なので、支援日程を決定。最初の 2 週間は火木の週 2 回、次の 2 週間は火木金の週 3 回の合計 10 回を 1 クールとして就労準備支援を実施。その時点で振り返りをし、今後のペースを決めることに。 - 受け入れ側では、困った時に聴ける受入担当者をつけてくれる。上記の曜日にはほぼ担当者も出勤しているので、1 日の流れや実施する作業、作業終了時の報告をすることに。途中わからないことがあった際に他の人に聞けなければ、担当者に聞くように、とのこと。 1 日ごとの振り返りを行うための、業務日誌を渡される。
相談支援員コメント

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】

〈DB 入力→一覧で出力〉

支援経過記録シート（入力用）

ID	000001-000001	氏名	〇〇 △△
----	---------------	----	-------

実施日	平成 28 年 2 月 25 日	担当者	みずほ 太郎
方法	☐ 電話相談・連絡 ☐ 訪問・同行支援 ☐ 面談 ☐ 所内会議 ☐ 支援調整会議(プラン策定) ☐ 支援調整会議(評価実施) ☐ その他他機関との会議(支援調整会議以外) ☒ 他機関との電話照会・協議 ☐ その他()		
対応相手先	☐ 本人 ☐ 家族() ☒ 関係機関 ☐ その他		
関与した関係機関・関係者等	就労準備支援事業所		

対応内容記録(200 字以内)
就労準備支援事業所より電話。A さんが就労準備支援に無断でこなかったとの連絡を受ける。就労準備支援事業所から A さんの自宅に電話するも誰も出なかったとのこと。今後、双方で連絡をとって、状況を確認することを確認。
詳細記録(聞き取り事項・確認した事実、対応状況等)
事業所の支援担当からは「かなり頑張っていたので、体調を崩したりしたのでは？」とのこと。
相談支援員コメント
再連絡をする必要あり。

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】

〈DB 入力→一覧で出力〉

支援経過記録シート（出力用：経過一覧）

ID	000001-000001	氏名	〇〇 △△
----	---------------	----	-------

実施日	担当者	方法	対応相手先	関与した関係機関・関係者等	対応内容記録
平成 27 年 7 月 3 日	〇〇	面談	本人	ひきこもり支援団体	・弟の暴力で自宅に帰れないとのこと。母親とも連絡を取り、緊急支援ということで、一時生活支援事業を利用することに。（入居は 2 週間に設定）
平成 27 年 7 月 4 日	〇〇	面談	本人		・これまでの経過や家族の状態について聞く。A さんは一人暮らしを希望。 ・家族の状況を把握するため母親にも話を聞くことに。
平成 27 年 7 月 5 日	〇〇	電話相談・連絡	家族		・弟が父親と口論になり暴れたため、警察を呼び弟が精神科病院に入院となったとのこと。入院期間は未定。
平成 27 年 7 月 5 日	〇〇	訪問・同行支援	本人		・利用中シェルターを訪ね、家族の状況を伝える。今後のことは弟の状況を見て考えることに。
平成 27 年 7 月 7 日	〇〇	電話相談・連絡	家族		・弟の入院は 3 ヶ月ほどとなった。母親からは一度 A さんが自宅に戻っては？との提案。
平成 27 年 7 月 7 日	〇〇	訪問・同行支援 電話相談・連絡	本人 関係機関	福祉事務所	・利用中シェルターを訪ね、弟のことを伝え、自宅に戻るか検討。A さん、それなら一度帰るとのこと。 ・A さんがシェルターを退所することを福祉事務所に連絡。 ・今後の A さん自身のことは一緒に考えていくことを確認。
平成 27 年 7 月 10 日	〇〇	面談	本人 家族		・A さんは自分自身の今後の自立のことを相談していく、母親は経済的なことや父親、弟のことを考えていくため別途相談申込をしてもらうことに。
平成 27 年 7 月 17 日	〇〇	面談	本人		・午前 11:00 より面談を予約していたがキャンセル。
平成 27 年 7 月 18 日	〇〇	電話相談・連絡	本人		・激しい疲労で寝込んでいた。疲れと朝起きられないため、前日はキャンセルとなってしまったとのこと。次回予約をする。
平成 27 年 7 月 24 日	〇〇	面談	本人		・相談ペースを 1 回/2 週間、なるべく午後に。 ・アルバイト経験から生育歴確認。クラスに馴染めなかったこと、いじめにあったこと等。

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】
 <DB入力→一覧で出力>

平成 27年 8月 14日	〇〇	面談	本人		・仕事にあたって不安なことをリストアップ。ちゃんと通えるか、人とのコミュニケーション、業務がこなせるか。 →どこかに通う練習や働く訓練があることを伝える。
平成 27年 8月 28日	〇〇	面談	本人		・自立相談支援機関以外のどこかに通うことを考えたら、不安が大きくなり怖くなった。夜も寝つけない日が増えた。 →焦らず、次回一度ここまで話したことを元に、課題整理シートに取り組んでみる。
平成 27年 9月 11日	〇〇	面談 他機関との電話照会・協議	本人 家族	医療機関	・課題整理シートを A さんと作成。不安や入眠困難については医療機関への受診を勧め、了承をもらう。医療機関に予約を取り、症状や経緯を説明したサマリーを担当が作成することとする。 ・後半は母親と母親担当相談支援員と合同で、それぞれの状況を確認。
平成 27年 9月 18日	〇〇	面談	本人		・プランシートを A さんと作成。 ・医療機関への紹介状を A さんに確認してもらい、微修正。
平成 27年 9月 20日	〇〇	支援調整会議 (プラン策定)	本人 関係機関	市福祉課 就労準備支援事業所	・まずはプラン通り支援を行う。 →同日に支援決定。
平成 27年 9月 21日	〇〇	訪問・同行支援	本人	医療機関	・医療機関の受診に同行。対人場面での不安や緊張、落ち込みを軽減する薬を処方。翌週の診察は頑張っ一人で行くとのこと。 ・待ち時間に、自分が当所に通うことになって、母親が少し落ち着いた、ほっとしたとのこと。
平成 27年 10月 2日	〇〇	面談	本人		・病院は翌週きちんと行けた。薬の効果はまだだが、続けてみる。主治医ともまだあまり話せない。 ・ひきこもり支援団体の自助グループに行ってみようとは思うが、何を話していいかわからない。意欲は高い。
平成 27年 10月 9日	〇〇	面談 他機関との電話照会・協議	本人	ひきこもり支援団体	・服薬を続けて少し眠りやすくなった。まだ主治医にはうまく話せない。伝えたい事をあらかじめメモしてから受診しては？とすすめる。 ・自助グループの予定表をみて、見学に行きたいと。予約をとる。
平成 27年 10月 17日	〇〇	訪問・同行支援	本人	ひきこもり支援団体	・相談員が同行しスタッフと面談。その足で相談員も一緒に SST の見学。講師の配慮で結局少し参加してみることに。

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】
 <DB入力→一覧で出力>

平成 27年 10月 23日	〇〇	面談	本人		・SST の振り返り。やる事が決まっているので良いが、コミュニケーションは苦手。続けて勉強したい。ただ、前から来ている人たちの仲が良く、フーリートークと一緒に食事をする会等は参加しにくそうで難しいとのこと。
平成 27年 11月 5日	〇〇	面談	本人		・来所途中に人目が気になり、緊張するのはだいぶ改善。 ・SST は、講師やスタッフが声をかけてくれるので、続けられそう。 ・就労準備支援の参加は、自信がない。→主治医への相談をアドバイス
平成 27年 11月 7日	〇〇	所内会議			・弟はグループホームに入ることができた、年金もおりることとなったが、それだけでは足りないため生活保護の申請も合わせてする方針。 ・父親の介護はケアマネと母親の関係も良くなってきて軌道にのりそうな様子。
平成 27年 11月 19日	〇〇	面談 他機関との電話照会・協議	本人	就労準備支援実施事業所 ひきこもり支援団体	・就労準備支援への A さんの気持ちを整わず、主治医は自助グループ専念を指導。→就労準備支援開始を先送り。 ・SST では、相手にどう思われているか不安。→年内の目標を1)就労準備支援事業所の話を聞く、2)SST の振り返りを自助グループのスタッフも含めて行うに修正。両者のアポとり。
平成 27年 12月 2日	〇〇	面談	本人		・就労準備支援事業所で聞いてみたい事や、参加希望理由を整理。 ・SST では知らない事が多く、驚くことが多い。何年も挨拶もすることがなかったため、良いリハビリになっている。ただ、職場に行ってできるかは不安。
平成 27年 12月 13日	〇〇	訪問・同行支援	本人	就労準備支援事業所	・就労準備支援の説明を聞きに行く。ひきこもり経験のある人も来ている事を聞き、安心する。 ・週2日1日3時間から始められる事を聞き、それならば挑戦できるかもしれない、と少しほっとする。
平成 27年 12月 19日	〇〇	その他他機関との会議(支援調整会議以外)	本人	ひきこもり支援団体	・自助グループのスタッフを交えてSST 参加の振り返り。 ・参加当初に比べリラックスしている、時々出る笑顔が良い、少しずつ目が合う、声が大きくなる等の変化。同時に、場面の理解が難しい時があることが確認された。
平成 27年 12月 25日	〇〇	その他			・自助グループには通っているが就労準備支援に行くまでにはまだ気持ち、体調が整わず。 ・就労準備支援は再度当面見送り。

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】
 <DB入力→一覧で出力>

平成 27年 12月 26日	〇〇	面談	本人 家族		【モニタリングとして面談を実施】 ・7月の初来所からの振り返り。Aさんは就労準備支援に参加できなかったことで自身を責めている。 ・ひきこもり支援団体や自立相談支援機関の来所、医療機関の受診、SST参加等大きな動きをできた1年でもあったことを伝える。 ・Aさんの支援、母親の支援の進捗を共有。父親と弟の支援はそれぞれ担当機関が機能してきているが、高齢者の生活には厳しい住まいをどうするかが課題として残る。
平成 28年 1月 8日	〇〇	面談	本人		・「年末年始、少し母親と話した。やはり早く働かなくては。就労準備支援を始めたい」とAさん。 →次回受診に相談員が同行し、主治医の意見を一緒にきいてみる事に。
平成 28年 1月 10日	〇〇	訪問・同行支援	本人	医療機関	・診察に同行。主治医に、就労準備支援について相談員から支援付きの訓練で、相談員がサポートしながら連携して訓練を支える事を伝える。主治医は時間や日数を徐々に増やして様子を見ながらやってみるように、と。
平成 28年 1月 16日	〇〇	面談 他機関との電話照会・協議	本人	就労準備支援事業所	・就労準備支援事業所に通所の開始について連絡。希望の訓練職種は清掃。週に2回3時間から始め、徐々に増やす事を希望。面談日までの調整を依頼。
平成 28年 1月 24日	〇〇	訪問・同行支援	本人	就労準備支援事業所	・就労準備支援事業所に約1ヵ月前に見学に行った後、就労準備支援にチャレンジすることについてAさんの気持ちも固まったので、就労準備支援事業所の就労支援担当者との面談に同行。支援の目的と不安事項、実習日程、受入担当者を確認し、1日ごとに記載する業務日誌を渡される。
平成 28年 2月 4日	〇〇	訪問・同行支援	本人	就労準備支援事業所	・就労準備支援初日に担当相談員も同行。他のメンバーへの挨拶から、作業の最初の30分ほどを見守った。Aさんは相当緊張していたが、自己紹介はなんとかできていた。
平成 28年 2月 17日	〇〇	面談	本人		・就労準備支援の振り返り。初日の自己紹介はSSTで慣れたので、なんとかできた。ただ、皆と一緒に作業をするのは緊張し、時々何を指示されているのかわからないことがあるとのこと。作業は少し慣れてきたそう。
平成 28年 2月 25日	〇〇	他機関との電話照会・協議	関係機関	就労準備支援事業所	・就労準備支援事業所より電話。Aさんが就労準備支援に無断でこなかったとの連絡を受ける。就労準備支援事業所からAさんの自宅に電話するも誰も出なかったとのこと。今後、双方で連絡をとって、状況を確認するこ

【3】支援経過記録シート【スタッフ使用】
 <DB入力→一覧で出力>

					とを確認。
平成 28年 2月 26日	〇〇	電話相談・連絡	本人		・Aさんから電話。先週相談と就労準備支援合わせて週4日も外出し、疲れきり土曜日から寝込んでいるとのこと。Aさんは今週の就労準備支援はお休みを希望。来週に振替可能かAさんから電話でよくことに。 ・母親が転居先を探しているが、今より便利になりそうで良いと思う。
平成 28年 2月 26日	〇〇	他機関との電話照会・協議	関係機関	就労準備支援事業所	・就労準備支援事業所担当者から電話。Aさんから電話があった旨申し送り。今週いっぱいお休みで様子をみて、来られそうなら来週3日訓練を実施する。
平成 28年 3月 4日	〇〇	他機関との電話照会・協議	関係機関	就労準備支援事業所	・就労準備支援事業所担当者から電話。無事にAさんは今日来られたとのこと。3/14に振り返りの面談を行う事になる。
平成 28年 3月 12日	〇〇	面談	本人 家族		・評価シートで、ここまでの振り返り。→次のステップにはまだ早い。引き続き、支援を続けていく必要あり。 ・後半は母親と母親担当相談支援員も交えてこれまでの経過共有。転居については家でも話していたが、父親の介護のことや弟の状況も確認。 ・4月に転居もあるが、就労準備支援は変わらず継続する。荷物の片付けは不安。
平成 28年 3月 14日	〇〇	その他他機関との会議(支援調整会議以外)	本人	就労準備支援事業所	・就労準備支援事業所で振り返り。遅刻せずに、まじめに取り組んだこと、時間と頻度を増やし10回やりきれたことを評価。まだ緊張感がある、作業が遅いのが課題。Aさんは継続希望。→5月まで時間と頻度を増やしながら継続。 ・継続の方向で再プランを3月中に行う。
平成 28年 3月 26日	〇〇	支援調整会議(評価実施)	本人 関係機関	就労準備支援事業所 ひきこもり支援団体	・当面の目標をしばらく継続する必要あり(5月末まで)と評価。

【4】支援ケース一覧【ケース概況の一覧表として出力、支援調整会議等で活用】
 <自動出力>

記入要領 p.63

支援ケース一覧

自立相談支援機関名				■■■■■		報告日	平成 27 年 9 月 30 日	抽出条件	・平成 27 年 7 月受付 ・対応重要度B									
初回 相談 受付 日	ID	氏名	性別	年 齢	住所	ステイ タス	プラン 回数	対応 重要度	対応 結果・ 方針	基礎情報 出力	課題のまとめと 支援の方向性	法に基づ く事業・そ の他関連 事業等	支援決 定・確認 日	モニタ リング予 定時期	プラン終 了予定 時期	プランの終結・継 続に関する本人 希望・スタッフ 意見	評価 決定 月	担当 者
平成 27 年 7 月 3 日	000001-000001	〇〇 △△	男 性	42 才		プラン策定へ	1	B	4(プラン策定へ)	■家族・地域関係・ 住まい 同居者:有 婚姻:未婚 子ども:無 ■職業・職歴等 就労状況:仕事をし ていない(探してい ない) 離職後年数:2 年以 上 ■チェック項目 障害(疑い), その他 メンタルヘルスの課 題, 経済的困窮, 就 職活動困難, 社会 的孤立(ニート・ひき こもりなどを含む), 家族関係・家族の 問題, コミュニケー ションが苦手, 本人 の脳力(識字・言語・ 理解等), その他	・A さんは長期ひきこもり。対人不安、働くことへの自信のなさ、自己理解や就業イメージの乏しさ、昼夜逆転があり、背景に軽度知的障害や発達障害の可能性も。医療機関へつなぎ、自己理解促進と存在を認められる関わりのもとし て、地域の居場所や就労準備訓練を提案する。 ・父親の介護、統合失調症の弟の病気や生活、住まいの問題を抱えており、状況を把握し必要な支援体制を整えるため、キーパーソンである母親に来所を促す。	平成 27 年 9 月 20 日	平成 27 年 12 月	平成 28 年 3 月 31 日				

【5】プラン兼事業等利用申込書【本人とスタッフが協働で作成→支援調整会議で検討→自治体による支援決定】※必須 <DB 入力→出力>

プラン兼事業等利用申込書

記入要領 p.26,65

ID	000001-000001	プラン作成日	平成 27 年 9 月 18 日
※作成回	■初回 □再プラン()回目	プラン作成担当者	みずほ 太郎

ふりがな		性別	■男性 □女性 □()
氏名	〇〇 △△	生年月日	□大正 ■昭和 □平成 48 年 7 月 1 日 (42) 歳

■解決したい課題

○働きたいが、次のような課題がある。

- ・ 外に出かけること自体が大変。朝起きられない、電車やバスで移動するのがストレス。外に出ることができるようになったり、生活リズムを整える必要がある。
- ・ 人と会うのが緊張する。何を話していいかわからないし、頭が真っ白になる。電車やバスの中でも人が気になる。そのため挙動不審になってしまう。
- ・ どんな仕事ができるのかわからない。働ける自信がない。人と関わらない仕事がいい。

○家族のことが不安。父親の介護や一人暮らしになった弟を世話する母親の負担が心配。

■目標(目指す姿)※ <本人が設定>

長期目標	本プランにおける達成目標
・働く。 ・母親の気持ちがラクになる。	・人と緊張しないで話せるようになる。 ・どこか通えるようになる。 ・できたら就労準備支援に参加する。 ・家族の状況を把握する。

■プラン※ <法に基づく事業等だけでなく、自立相談支援機関や関係機関等が行うことや、本人が行うことも含めて記入>

実施すること (本人・家族等・自立相談支援機関・その他関係機関)	備考(関係機関・期間・頻度など)	法に基づく 事業等 (該当時○)
心療内科に通う (初回は相談員が紹介状を準備して同行する。2 回目以降も困った時には相談員が同行する)	医療機関 (頻度は主治医の指示に従って)	
人と実際に話して慣れる (相談員と、ひきこもり支援団体スタッフが連絡をとりあいながらサポートする。)	ひきこもり支援団体の自助グループに行く。最初は週1回 SST グループに参加。事前に相談員とグループのスタッフと面談	
就労準備支援の場に参加する (通いやすく、人と接する時間の少ない業務のある事業所を相談員が探し、一緒に見学から始める)	就労準備支援事業所	○
定期的に相談員を交えて家族の状況を確認する。 (A さん、母親、A さん担当相談員、母親担当相談員の 4 人で面談)	3 カ月に 1 回を目安に 状況に応じて父親の介護に関して地域包括と、弟の医療機関とも連絡を取りながら進める。	

【5】プラン兼事業等利用申込書【本人とスタッフが協働で作成→支援調整会議で検討→自治体による支援決定】※必須 <DB 入力→出力>

■法に基づく事業等※

メニュー		利用有無	支援方針(期間・実施機関・給付額等)
1	住居確保給付金	☐ 有 ☒ 無	支給期間 ____年__月__日～____年__月__日 給付額 ____円/月 ☐ 申込中 ☐ 既受給 ☐ 申込予定 備考()
2	一時生活支援事業	☒ 有 ☐ 無	支援期間 27 年 7 月 3 日 ～ 27 年 7 月 7 日 ☐ 申込中 ☒ 既利用 ☐ 申込予定 備考(現在は利用を終了)
3	家計相談支援事業	☐ 有 ☒ 無	支援期間 ____年__月__日 ～ ____年__月__日 備考()
4	就労準備支援事業	☒ 有 ☐ 無	支援期間 27 年 12 月 1 日 ～ 28 年 3 月 28 日 備考(心療内科医師に随時状況報告・相談しながら行う。)
5	認定就労訓練事業	☐ 有 ☒ 無	☐ 雇用型 ☐ 非雇用型 支援期間 ____年__月__日 ～ ____年__月__日 備考()
6	自立相談支援事業による就労支援	☐ 有 ☒ 無	

■その他関連する事業等※

メニュー	利用有無	支援方針(期間・実施機関・給付額等)
生活福祉資金等による貸付	☐ 有 ☒ 無	
生活保護受給者等就労自立促進事業	☐ 有 ☒ 無	

■プランの期間と次回モニタリング(予定)時期

※プラン期間	平成 28 年 3 月 31 日まで	次回モニタリング時期	平成 27 年 12 月
--------	--------------------	------------	--------------

■プランに関する本人同意・申込署名欄

〇〇様
私は、 ☒上記のプランに基づく支援について同意します。
☒法に基づく事業(上記 3, 4, 5)の利用を申し込みます。
平成 27 年 9 月 11 日 本人署名 〇〇 △△ 印

<支援調整会議・支援決定>

※支援調整会議開催日	①平成 27 年 9 月 20 日 ②平成 ____年__月__日 ③平成 ____年__月__日	※支援決定・確認	■支援決定(法に基づく事業(上記 3,4,5)) ■確認(法に基づく事業(上記 3,4,5)以外) (決定・確認日:平成 27 年 9 月 20 日)
------------	---	----------	---

<備考>

<必要添付書類>

☐ インテーク・アセスメントシート
☐ その他添付書類(法に基づく事業等の利用にあたって必要とする添付書類)

【5'】プラン兼事業等利用申込書追加確認項目

入力・集計支援ツールにおいて登録が必要な追加項目についてのお願い

- 事業の実施状況把握のため、帳票(プラン兼事業等利用申込書)としては記載の必要はないものの、「入力・集計支援ツール」で入力・登録いただきたい項目が2つ(SQ1,SQ2)あります。いずれも、実態把握のため必要な「月次報告」に反映される項目ですので、もれなく入力・登録をお願いいたします。
- SQ1 は、「当該プラン期間内において、一般就労を目指しているかどうか」を確認するものです。
 - SQ2 は、「このプランを実施するにあたり、関係・関与する人や機関」を選択肢のなかからすべてチェックしていただくものです。

【入力・集計支援ツールのみで登録が必要な項目】

(SQ1)一般就労達成の目標設定状況※ (いずれかにチェック)

プラン期間中の一般就労の達成を目標にしているか	☐ はい ☒ いいえ
-------------------------	---

(SQ2)プランの実施に係る関係機関・関係者※ (あてはまるものすべてにチェック)

☐ 福祉事務所(生活保護担当部署)	☐ 地域子育て支援センター・その他子育て支援機関
☐ 家庭児童相談室(福祉事務所)	☐ 男女共同参画センター・婦人相談所・配偶者暴力相談支援センター
☐ 行政の子ども家庭担当部署	☐ 家計相談支援機関
☐ 行政の高齢担当部署	☐ 小口貸付
☐ 行政の障害担当部署	☐ 権利擁護・成年後見
☐ 行政の税担当部署	☐ 社会福祉協議会(小口貸付、権利擁護以外)
☐ 行政の保険・年金担当部署	☐ 法テラス・弁護士(会)・司法書士会
☐ その他行政の担当部署	☐ 消費生活センター・消費生活相談窓口・多重債務者等相談窓口
☐ ハローワーク	☐ 警察
☐ 職業訓練機関	☐ 更生保護施設・自立準備ホーム
☒ 就労支援をしている各種の法人・団体(就労訓練事業を含む)	☐ 地域生活定着支援センター
☒ 医療機関	☐ ホームレス支援機関
☒ 地域包括支援センター	☐ 一時保護施設
☐ 居宅介護支援事業所・その他介護事業所	☐ 民生委員・児童委員
☐ 保健所・保健センター・精神保健福祉センター	☒ NPO・ボランティア団体
☐ 障害者就業・生活支援センター	☐ 商店街・商工会等経済団体
☐ 障害者就労支援事業所	☐ 農業者・農業団体
☐ その他障害者支援機関・施設	☐ 生活協同組合
☐ 児童相談所・児童家庭支援センター	☐ 一般企業
☐ 学校・教育機関	☐ 町内会・自治会、福祉委員、近隣住民
☐ 地域若者サポートステーション	☐ その他()

【6】評価シート【本人とスタッフが協働で作成→支援調整会議で確認】※必須
 <DB 入力→出力>

記入要領 p.33,74

評価シート

ID	000001-000001	氏名	〇〇 △△
※評価回	■初回 □()回目	担当者	みずほ 太郎
		評価記入日	平成 28 年 3 月 23 日

■目標の達成状況

※目標の達成状況	○人と緊張しないで話せるようになる。:緊張はまだ強いが、少しは人と話せる感じがしてきた。病院にも通い服薬を続けている。 ○どこか通えるようになる。:週に 3 日の就労準備支援、日程が合えば自助グループの SST と通うところはできた。ただ、出かける日が連続すると疲れきってしまう。体力面も課題だとわかった。 ○できたら就労準備支援等に参加する。:参加できた。途中休んでしまったが、諦めずに戻れたのは良かった。就労に向けてはまだ不安だらけ。一度に沢山のことを言われるとパニックになる。一つのことをコツコツやるのは良いようで、「ありがとう」と言われて嬉しかった。 ○家族のこと:母親も自立相談支援機関に通うようになって、少し気が楽になっている様子。弟や父親の介護のことも軌道に乗ってきたようで良かった。家の転居は片付けが大変で不安があるが、駅に近くなるのは嬉しい。
※見られた変化	■医療機関受診開始 ■健康状態の改善 □障害手帳取得 □住まいの確保・安定 □生活保護適用 □家計の改善 □債務の整理 □就労収入増加 □就労開始(一般就労) □就労開始(中間的就労) □職場定着 □就職活動開始 □職業訓練の開始、就学 ■社会参加機会の増加 ■生活習慣の改善 ■対人関係・家族関係の改善 ■自立意欲の向上・改善 ■孤立の解消 ■精神の安定 □その他()
現在の状況と残された課題	○自分のこと:通えるところはできたが、就労というにはまだ体力も能力も自信がない。どんなことに自信を持って就職していっていいのかはわからない。引き続き、就労準備支援を受けたい。 ○家族のこと:家族も動きがあるものの、自分はあまり把握できていない。家では十分話せないの、自立相談支援機関で、母親や母親担当の相談支援員とまた話したい。

■法に基づく事業等の利用実績等

法に基づく事業等	利用有無	通算利用実績	利用の効果／継続利用の必要性等
住居確保給付金	□有 ■無	ヵ月	
一時生活支援事業	□有 ■無	日	
家計相談支援事業	□有 ■無	ヵ月	
就労準備支援事業	■有 □無	10 日	時間と頻度を増やし 10 回やり通したことが少し自信に。引き続きの就労準備支援が必要(A さんも希望)。
認定就労訓練事業	□有 ■無	日	

■プランの終結・継続に関する本人希望・スタッフ意見

本人の希望	□終結を希望 ■継続を希望	スタッフの意見	就労準備支援継続が必要。自信と体力をつけ、自己理解を深め、次のステップに進む準備が必要。家族のことを A さん自身が理解する機会も重要。
-------	-----------------------------	---------	--

<支援調整会議における評価実施>

※支援調整会議開催日	平成 28 年 3 月 26 日	※プラン評価	□終結 ■再プランして継続 □中断 (決定日:平成 28 年 3 月 28 日)
終結後の対応/ 再プラン時の留意点	現在の方針であと 2 ヶ月続ける。6 月には就労準備支援内の作業の様子も含めたアセスメントに基づき再々プランを行う。そのために、担当相談支援員が一度就労準備支援の現場に出向いて作業の様子を見た方がよい。		

<必要添付書類>

□プラン兼事業等利用申込書

【図解】アセスメント⇒プラン⇒評価の流れ

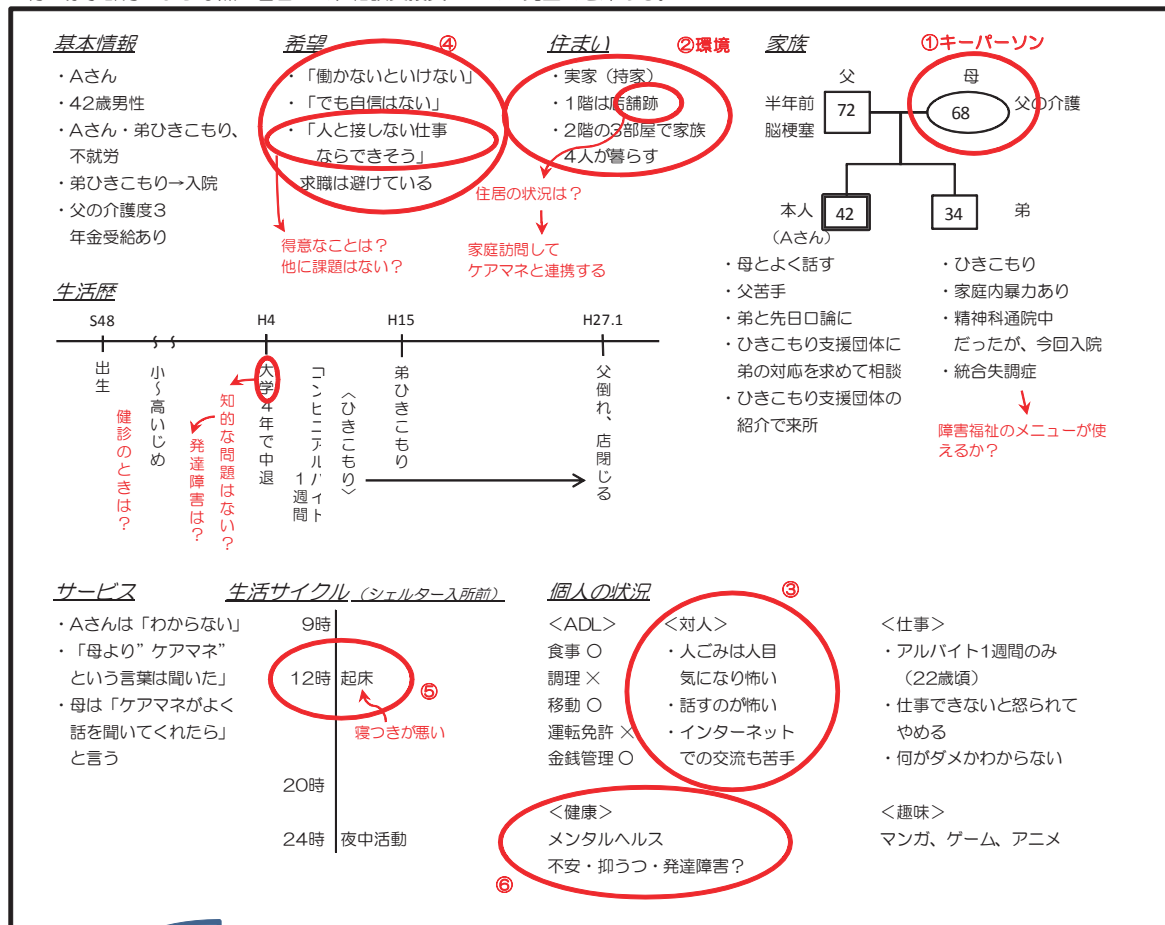
記入要領 p.22

アセスメント

(インテーク・アセスメントシート)

■課題と背景要因

※アセスメントで把握・整理した本人及び周囲に関連する情報をもとに、本人に関係する課題を列挙し、その背景要因を考察する。
※特に赤字部分のような点に着目して、相談支援員としての見立てを深める。



見立て

- ①対人接触が少ない就労の方向に向けた支援
- ②Aさんが自分の強みと課題に気づく支援
- ③医療的支援(メンタル)の診断、治療
- ④生活習慣の見直し

Aさんにとって身近なところで存在を認められる関わりの蓄積が必要

- ⑤母がキーパーソン → 母に話を聞く
- ⑥介護の環境整備が必要

■課題のまとめと支援の方向性

Aさんは長期ひきこもり。対人不安、働くことへの自信のなさ、自己理解や就労イメージの乏しさ、昼夜逆転があり、背景に軽度知的障害や発達障害の可能性も。医療機関へつなぎ、自己理解促進と存在を認められる関わり場の場として、地域の居場所や就労準備訓練を提案する。

父親の介護、統合失調症の弟の病気や生活、住まいの問題を抱えており、状況を把握し必要な支援体制を整えるため、キーパーソンである母親に来所を促す。

■課題のまとめと支援の方向性（再掲）

・Aさんは長期ひきこもり。対人不安、働くことへの自信のなさ、自己理解や就労イメージの乏しさ、昼夜逆転があり、背景に軽度知的障害や発達障害の可能性も。医療機関へつなぎ、自己理解促進と存在を認められる関わり場の場として、地域の居場所や就労準備訓練を提案する。

・父親の介護、統合失調症の弟の病気や生活、住まいの問題を抱えており、状況を把握し必要な支援体制を整えるため、キーパーソンである母親に来所を促す。

プラン策定

（プラン兼事業等利用申込書）

■解決したい課題

○働きたいが、次のような課題がある。

- ・外に出かけること自体が大変。朝起きられない、電車やバスで移動するのがストレス。外に出ることができるようになったり、生活リズムを整える必要がある。
- ・人と会うのが緊張する。何を話していいかわからないし、頭が真っ白になる。電車やバスの中でも人が気になる。そのため挙動不審になってしまう。
- ・どんな仕事ができるのかわからない。働ける自信がない。人と関わらない仕事がいい。

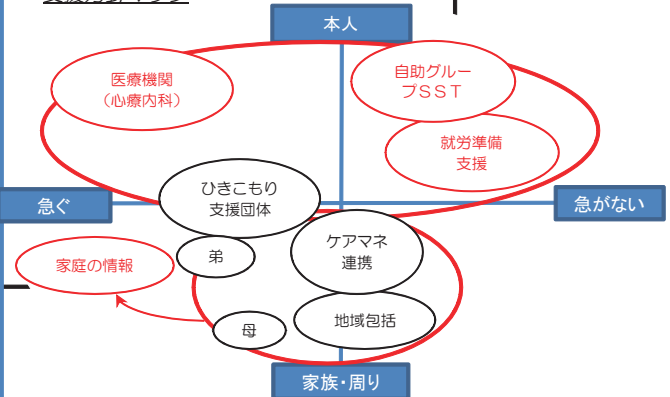
○家族のことが不安。父親の介護や一人暮らしになった弟を世話する母親の負担が心配。

■本プランにおける達成目標

・人と緊張しないで話せるようになる。
・どこか通えるようになる。
・できたら就労準備支援に参加する。

・家族の状況を把握する。

支援方針マップ



評価

（評価シート）

■目標の達成状況

○人と緊張しないで話せるようになる。
緊張はまだ強いが、少しは人と話せる感じがしてきた。病院にも通い服薬を続けている。

○どこか通えるようになる。
週に3日の就労準備支援、日程が合えば自助グループのSSTと通うところはできた。ただ、出かける日が連続すると疲れきってしまう。体力面も課題だとわかった。

○できたら就労準備支援等に参加する。
参加できた。途中休んでしまったが、諦めずに戻れたのは良かった。就労に向けてはまだ不安だらけ。一度に沢山のことを言われるとパニックになる。一つのことをコツコツやるのは良いようで、「ありがとう」と言われて嬉しかった。

○家族のこと
母親も自立相談支援機関に通うようになって、少し気が楽になっている様子。弟や父親の介護のことも軌道に乗ってきたようで良かった。家の転居は片付けが大変で不安があるが、駅に近くなるのは嬉しい。

■現在の状況と残された課題

○自分のこと
通えるところはできたが、就労というにはまだ体力も能力も自信がない。どんなことに自信を持って就職していいのかわからない。引き続き、就労準備支援を受けたい。

○家族のこと
家族も動きがあるものの、自分はあまり把握できていない。家では十分話せないで、自立相談支援機関で母親や母親担当の相談支援員とまた話したい。